

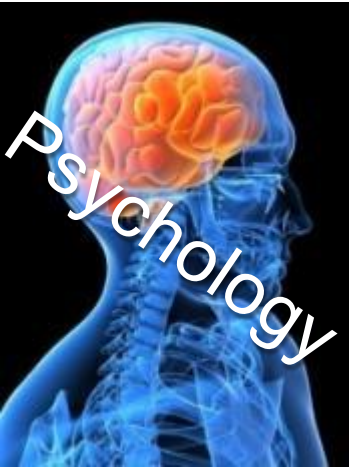
# 意志があるのに実行しない心理 ～リスクを高める潜在的動機～



大友 章司

1

# 情報セキュリティ×心理学 ≈ リスク心理学？



セキュリティ技術という面では、残念ながら心理学は貢献できることはない。

しかし、セキュリティ対策を行う(べき)人間の問題については、多くの心理学的なテーマがある。

情報セキュリティ対策の重要性を分かっているのに、なぜ対策を怠るのか？



人間の非合理性を解き明かすリスク心理学or社会心理学のテーマ(そもそも心理学とリスクは相性が抜群)。

## 2

# 時代遅れの心①:リスク心理学の考え方

本題の前に、近年のリスク心理学の考え方を紹介。

リスクに対する人々の反応の仕方として、心理学者のSlovicは、2つのパターンに分類している (Slovic et al., 2004)。

感情的反応

即時的、直感的、自動的な反応モード

分析的反応

論理的、合理的な思考による反応モード



分析的反応は補完的なシステムで、多くの場面では感情的反応が優先的(e.g. 自動車よりも飛行機が怖い)。

### 3

## 時代遅れの心②:リスクに対応できない人間



目の前の状況に感情が自動的に反応することで、危機的場面で即座に危険を回避することができる。

しかし、現代の新しいリスク問題においては、感情的反応がアダとなる(BSE感染牛、新型インフル?)。

⇒現代のリスク問題は直感や感情で対応できない。

# 4

## 心理学からみた情報セキュリティ問題の特徴

### 1) 知識の問題

- ① 情報格差・・・ヘビーユーザーとアレルギー
- ② 技術のスピード・・・陳腐化が早い。

### 2) リスクの観点

- ① 不確実なリスク・・・地震のように不意に起きる。
- ② 経験的に理解できるものではない(cf 病気)。
- ③ 被害が顕在化しにくい。  
(いつの間にか被害者、あまり報道されない)

### 3) 対策することへのインセンティブがない。

セキュリティ対策をしたところで儲けられない。

➡ 対策から遠ざけるような側面が圧倒的に強い。

## 5 実行させない心理～リスク行動の心理学～

とはいうものの、ある程度の知識や能力があれば情報セキュリティ対策の重要性は分かる。



重要性が分かっているにもかかわらず行動をしないのはなぜか？

⇒情報セキュリティ対策がすすまない本丸がここにある。

情報セキュリティ対策の重要性を分かっているのに、なぜ対策を怠るのか？



人々を情報セキュリティ対策から遠ざける現象をリスク行動に関する研究知見から考察。

危険を冒す選択、自滅的な行動に向かわせる心理からみえてくるもの。

セキュリティ対策を取らないというリスク行動は？



## 不作為のリスク行動

行動を取らないことがリスクを高めてしまう

⇒対策を先延ばしした結果、被害に合ってしまう。

\*不作為・・・本来の意味は意図的に行動を取らない。

➡ 被害に合うために積極的に先延ばししているのではなく、なんとなくやらないでいる。

(主観的に)安全である平常状況が続くことが、逆に人々のリスクを高める。

### 日常におけるセキュリティの問題

毎日リスクに曝されているという自覚はない。⇒対策をしなくても安全だという錯覚。

心理的な環境としての意味は・・・

- 1) 対策を喚起させる刺激が存在していない。
- 2) 安全が続くことは対策を取らないことを許容させる。

安全な状況が人々を一種の平和ボケにさせ、潜在的に対策行動から遠ざける。

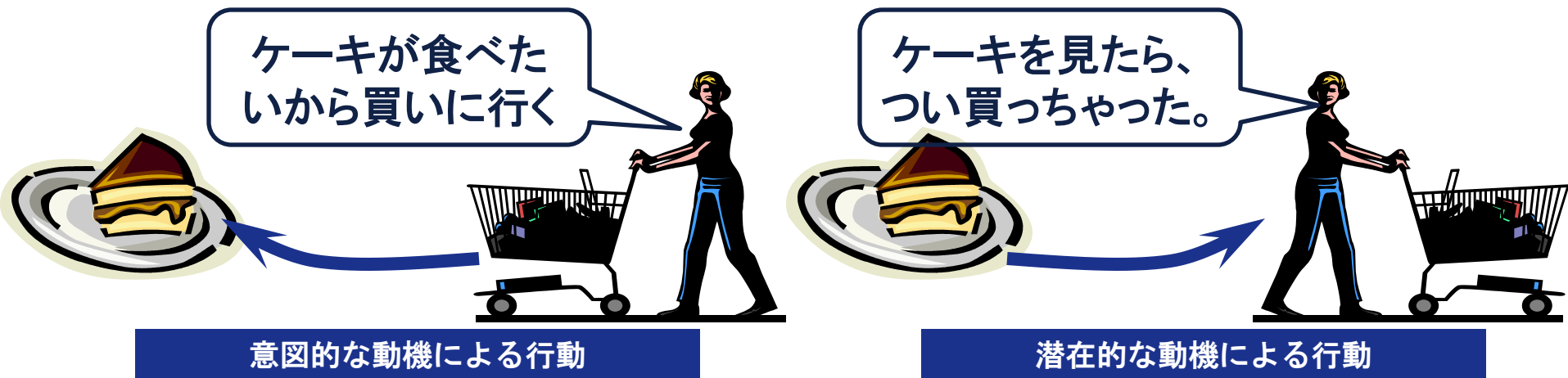




人は状況に応じた自動的に行動を取ってしまう。

## 自動動機モデル(Bargh, 1990)

社会的環境が個人にある潜在的な動機(目標)を喚起させ、非意識的に行動を導いてる。



➡ 知らない内に環境刺激に応じた行動を選択している。

## 自動動機のやっかいな側面

- ①意識的な選択ではない。
  - ②本人の自覚はない。
  - ③意識的にコントロールすることが難しい。
- ⇒自分では分からないけど、なんとなくやってしまう。

## 情報セキュリティ×安全状況で考えると

- 1) 安全だと思える状況⇒行動を起こす必要がないという表象⇒何もしなくなる。
- 2) 安全という状況刺激が潜在的に対策から遠ざける。
- 3) 本人の意志とは無関係に選択がなされてしまう。

# 10

## 自分の行動にどこまで責任が持てるのか？

- ・自分の行動が自分で決めたものでないのは直感に反する。
- ・全ての行動が、環境⇒非意識的とは限らない。
- ・リスク行動に対して、どれくらいコントロールできるのか？



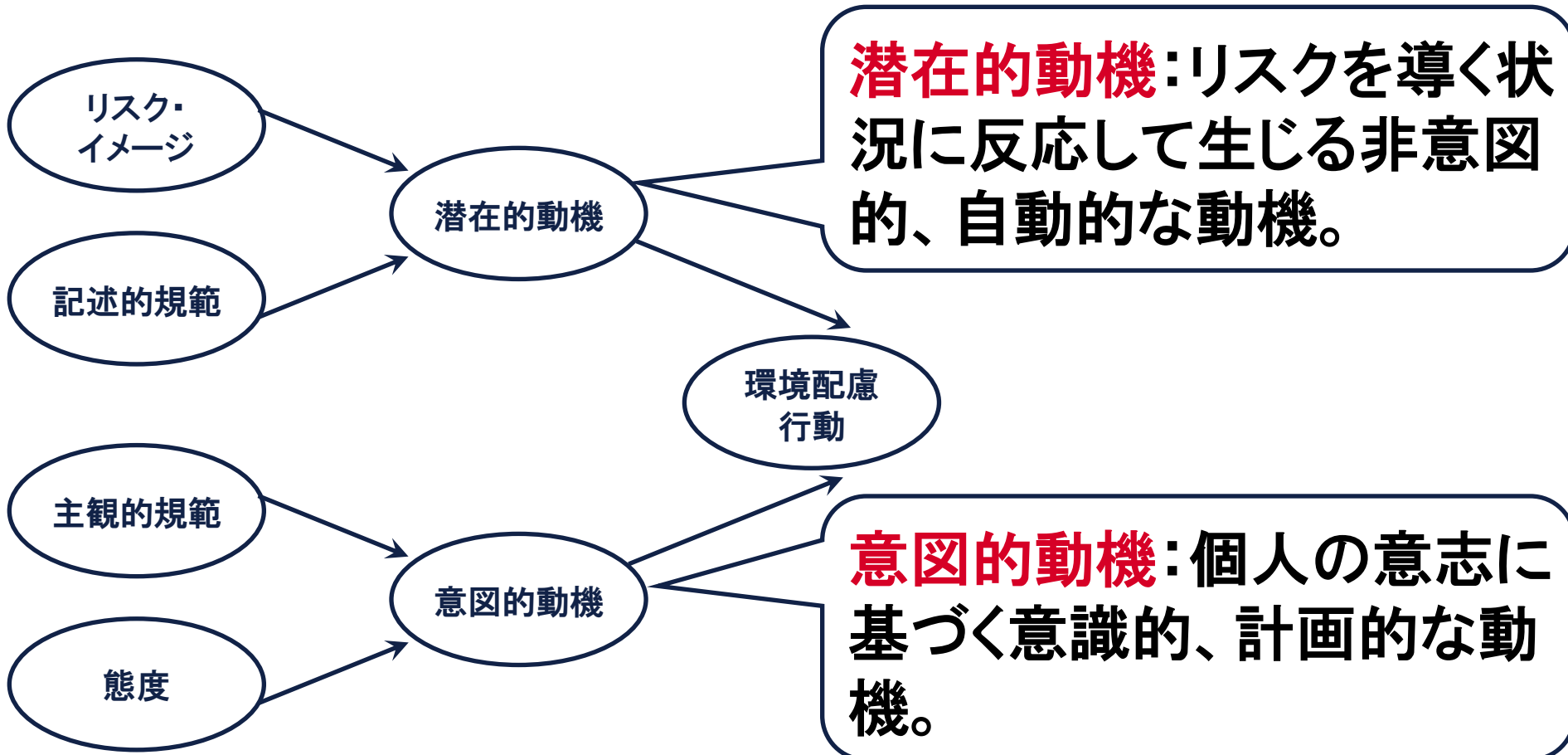
人はどれだけ自分のリスク(対処)行動を思ったようにコントロールできるのか？

自分の意識や考えに基づいて行動できる。

VS

状況(環境)に流されて行動してしまう(先延ばす)。

リスク行動は意志に基づくのか？状況に左右されるのか？



セキュリティはないものの、2重動機モデルは、環境配慮行動、健康リスク行動、防災行動の事例で研究されてきた。

地震防災行動の普及率は3割程度で、行政が掲げる目標値である6割程度からは程遠い (内閣府, 2008)。

### 地震防災行動の特徴

大地震は滅多に起きないため、何もしなくても安全に暮らしていける。

心理的な環境としての意味は・・・

- 1) 防災行動を喚起させる刺激がない。
- 2) 安全生活は防災行動を取らないことを許容させる。

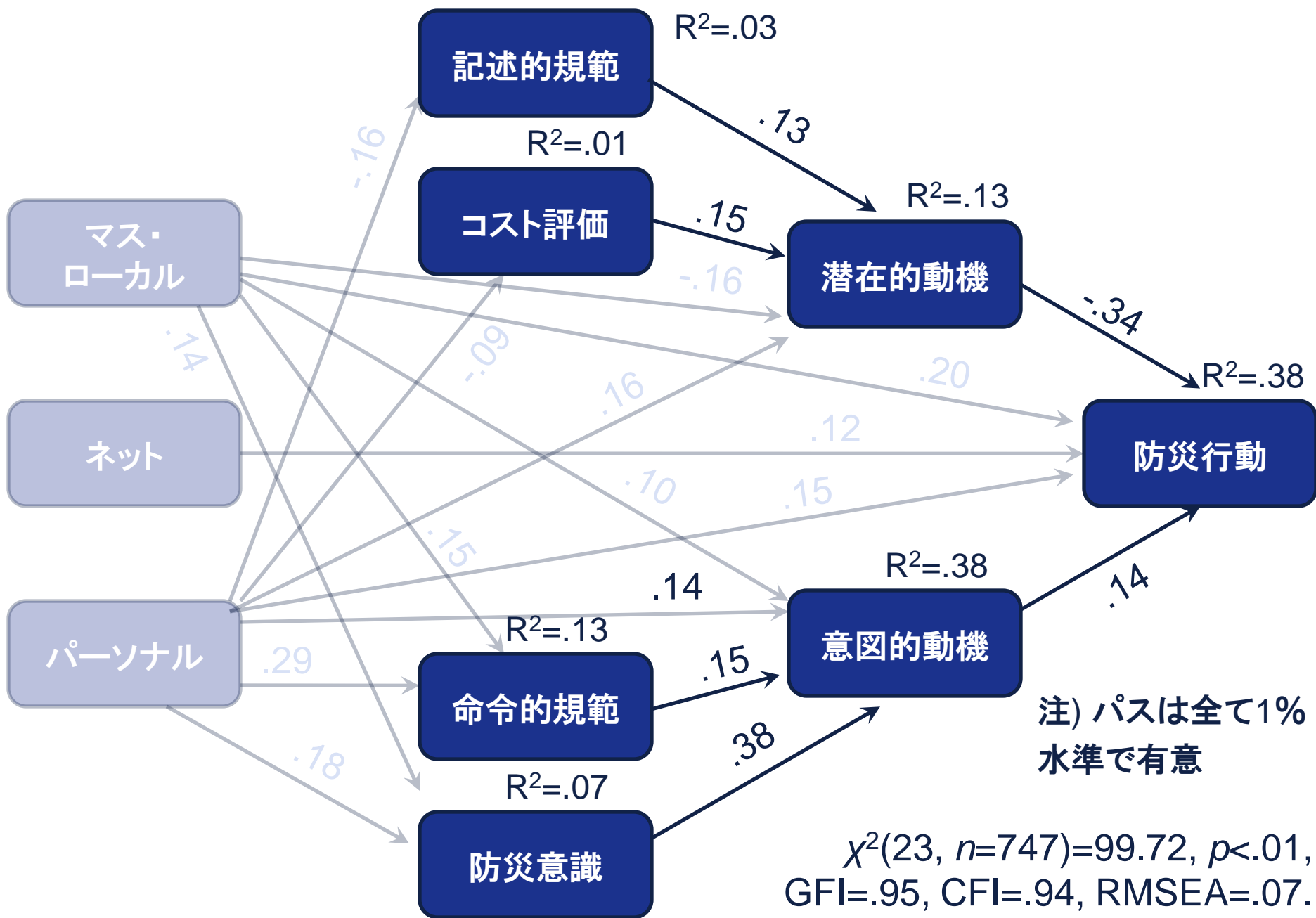


## 地震防災行動を対象にした2重動機の調査結果

- ① 個人の意志に基づく意図的動機が防災行動を促進、
- ② 防災行動を取らないことを許容する状況への反応である潜在的動機が防災行動を抑制していた。
- ③ 意図的動機よりも潜在的動機の影響力の方が強い。



- a) 意志に基づいて行動するより、平穏な状況により行動を先延ばしする傾向が高い。
- b) 防災行動を取りたいという意志があっても、普段の安全な生活から「今度でいいや」と思ってしまう。



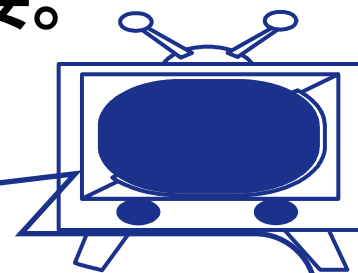
注) パスは全て1%水準で有意

$\chi^2(23, n=747)=99.72, p<.01, GFI=.95, CFI=.94, RMSEA=.07.$

図1 N市の一般市民を対象にした地震防災行動の調査

環境＝物理的環境だけ？ 主観的な社会的現実の存在。

- ・大地震は低頻度のため、経験的に理解することは困難。
- ・地震や防災について、ある程度の知識が必要。



### 災害に関するメディアの役割

- 1) 災害報道を自分のことのように感じる代理的経験。
- 2) 地震防災に関する情報や取り組みの紹介

メディアは、防災意識、規範感や動機といった心理要因に影響を及ぼす重要な環境要因？



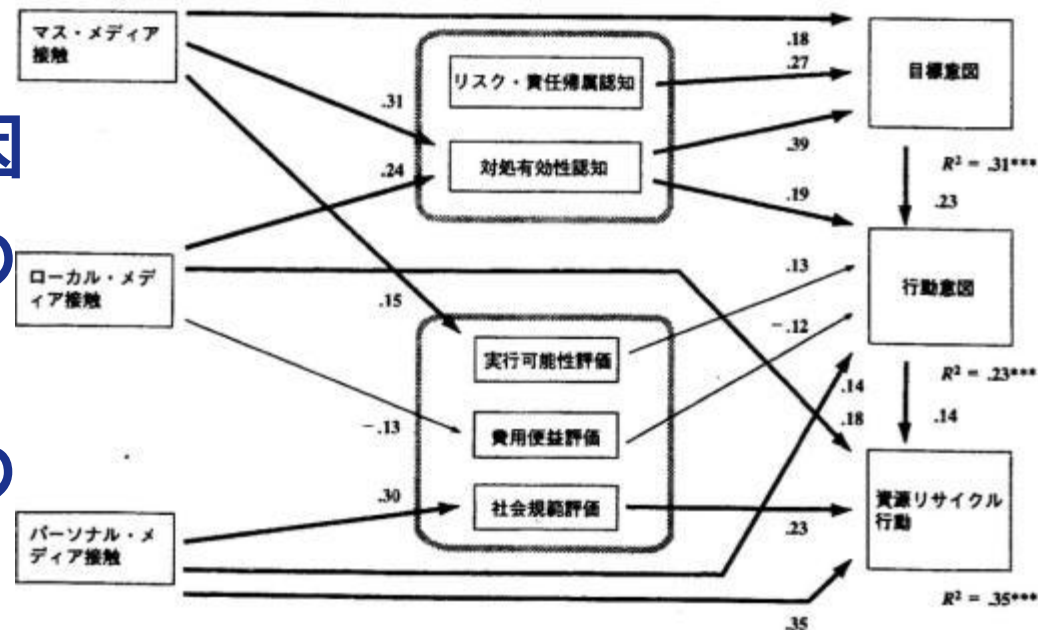


メディアの種類によって影響プロセスが異なる。

- ・マスメディア：テレビ、新聞
- ・ローカルメディア：行政だより、地域広報誌
- ・パーソナルメディア：友人・知人からの情報提供

野波ら(1997)によると、

- ①マス⇒態度やその規定因
- ②ローカル⇒態度や行動の規定因の両方に影響
- ③パーソナル⇒行動やその規定因



## 2重動機モデルにおけるメディアの影響の分析結果

### ①マス・ローカル因子

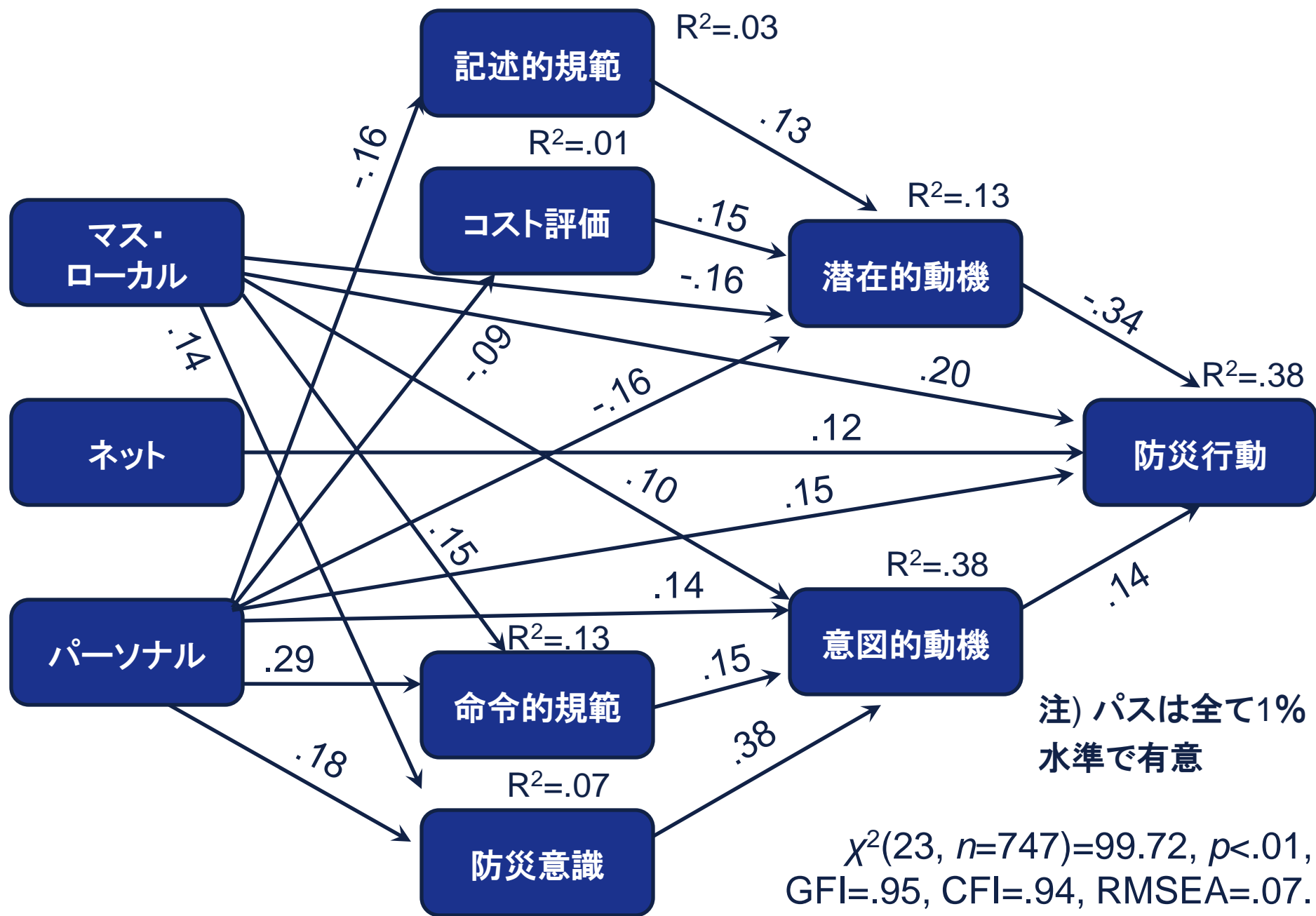
⇒両メディアの影響を合わせた態度→行動をつなぐ要因

### ②パーソナルメディア因子

⇒規範や防災行動だけでなく、全ての要因に影響を及ぼす重要要因。つまり、周囲にいる口うるさい人の存在。

### ③インターネット因子

⇒防災行動に対する直接的な影響のみが確認され、他の心理要因との関連がみられなかった。



人間は現代のリスク問題に対応できる心理的基盤をもっていない。



- a) リスクに対して慎重な判断を行う分析的反応よりも、直感による感情的反応が強く作用。
- b) リスク(対処)行動においても、個人の意志による意図的動機よりも、状況反応的な潜在的動機が強く作用する可能性大。

人はリスクに対して現在焦点型の認知・行動パターンを選択する。

⇒目の前、目にみえるリスクへの対応が優先。

## リスク行動に対する処方箋

- a) 現在焦点型なので、目の前の環境に対する認識を変える必要がある。
- b) 環境≠物理的ではない。主観的であることに脈あり。
- c) 主観的な現実感を形成する要因の1つがメディアであり、とくに、one to oneのパーソナルメディアが重要。



 身近な人からの情報が、さまざまな心理要因に作用し、状況認識や動機づけを変える。

どうやって現実に対する認識を変えればいいのか？

## 1000名の統計データよりも友人の従兄弟の1事例

ある人が新車を買う際、『コンシューマー・レポート』誌を調べて、修理回数がもっとも少ないトヨタ車を買うことに決めた。



ところが、ディナー・パーティーで友人から、「おれの従兄弟がトヨタ車でひどい経験した」という話を聞かされ、トヨタ車を買うのを諦めた。

多量の統計データよりも、1つの鮮明で身近な事例の影響を強く受ける。



### \* 自動動機に関する理論のレビュー

Bargh, J. A. (1990). Auto-motives: Preconscious determinants of social interaction. In E. T. Higgins & R. M. Sorrentino (Eds.), *Handbook of motivation and cognition* (Vol. 2, pp. 93-130). New York: Guilford.

### \* 環境配慮行動のメディアの研究

野波寛・杉浦淳吉・大沼進・山川肇・広瀬幸雄 (1997). 資源リサイクル行動の意思決定における多様なメディアの役割-パス解析モデルを用いた検討- 心理学研究, 68, 264-271.

### \* 地震防災行動の2重動機モデルとメディアの影響の学会発表

大友章司・岩崎祥一, 2009年8月, 地震防災行動の2重動機モデルにおけるメディアの影響, 日本心理学会大73回大会, 立命館大学, p243.

### \* 2重動機モデルを提唱した論文

Ohtomo, S. & Hirose, Y. (2007). The dual process of reactive and intentional decision-making involved in eco-friendly behavior. *Journal of Environmental Psychology*, 27, 117-125.

### \* リスクに対する分析的反応と感情的反応のレビュー

Slovic, P., Finucane, M. L., Peters, E., & MacGregor, D. G. (2004). Risk as analysis and risk as feelings: Some thoughts about affect, reason, risk, and rationality. *Risk Analysis*, 24, 311-322.